

第75号 「目標と目的」

令和2年6月1日

新型コロナウイルスの影響で、3年生にとって大きな目標であった部活動の大会中止が次々と発表されています。総体、高校野球、コンクール等、それぞれが目標に向かって辛い練習に耐え、仲間と励まし合い、競い合い、まさに青春をかけてきた生徒たちのことを考えると心が痛みます。

私も島根県吹奏楽連盟理事長として大会中止を決定した一人です。高校だけでなく、小学校・中学校・大学・一般の団体が所属する吹奏楽連盟は、コンクールに代わる事業を県組織として開催することは困難です。本当に苦渋の決断でした。自分が顧問の立場だったら、子どもたちにどのような言葉をかけるのか考えましたが、思い浮かびませんでした。共に悔しがり、共に泣くしかないというのが私の結論です。それだけ大きな決断だったと感じています。

人は、目の前の目標を奪われてしまったとき、どうすれば良いのでしょうか。次の目標を見つけて頑張れば良いとよく言います。しかし私は今、そんな無責任なことを言うことはできません。まずは現実を受け止め、自分の気持ちに素直になること。そして、その自分の気持ちをしっかりと受け入れること。そこから始めないと本当の意味で次のステップに進むことはできないと考えます。人によって受け入れるまでの時間は異なるでしょう。その時間をできるだけ共有し、その思いに共感してやりたい。しかし、実際には様々なことがめまぐるしく当たり前のようにやって来ます。これもまた現実です。現実は本当に厳しい。最終的には子どもたちが自分で解決するしかないと思いますが、我々は子どもたちの心に寄り添うことしかできないのでしょうか。今回のコロナ禍において、私は自分の無力さを痛感しています。

ただ一つだけ言えるとしたら、目標を奪われたとしても目的は失われていないということです。目的は「最終的に目指すべき到達点」であり、目標は「目的を成し遂げようとするために設ける具体的な目印や手段」です。たとえば、〇〇という店に行くことが目的（目的地）だとすると、そこに辿り着くまでの道のりにおいて頼りにする信号や看板等（目印）が目標となります。何かの事情で目標を変更して異なる道や回り道をしたとしても、最終目的地には必ず到着します。

子どもたちに、「自分の目的を達成するために次の目標を見つけよう」と言える日が、早く来ることを心から願います。そんな偉そうな言い方をしている私ですが、自分の人生の目的は何だろうと考えても答えが出てきません。もしかしたら、目の前の目標しか見ていないのかもしれないかもしれません。私は一体どこに向かおうとしているのでしょうか。今更ながら再度考えてみたいと思います。